



マルチ燃費計 e-nenpi

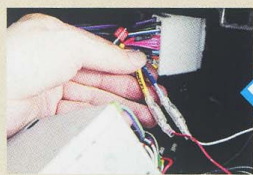
¥19,425

㈱ピボット ☎0263-46-5901 <http://www.pivotjp.com/>



取付は車種によっては大変なことも……

これは便利!!



▲クルマのバッテリーをはずしたあと、電源、アース、車速信号配線を接続。今回のように電源取り出しハーネスを使う場合は、e-nenpi側のコード先端をキボシ端子に加工する必要がある



▲e-nenpiでは常時電源、アース、車速信号、インジェクター信号の4つの配線が必要。便利なのは、オーディオのカプラーから電源を取り出せる「電源取り出しハーネス」だ。マツダ用24ピンタイプでは、車速信号も取り出すことができたので、作業が短縮された



▲続いてインジェクター信号を配線。エンジンコンピュータから信号を取り出すのだが、今回のデミオはエンジンルーム内にコンピュータがあったため、配線をエンジンルームから室内へと引き込むのが、やや面倒だった



▲あとは車内の見やすい場所を選び、モニターを付属の両面テープで設置すれば取り付けは完了

ゲーム感覚で燃費向上!!

後付け燃費計で、エコドラが楽しくなる!

エコランに燃費計は必須。燃費が上がっている実感がないと、結構辛いのだ。というわけで、ここでは機能満載のマルチ燃費計をチェックしましょう!



▲表示できるのは瞬間燃費 (写真右) / 平均燃費 / 積算燃費 / 消費量 / アイドリング消費 (写真中央) / 積算消費量 / ガソリン代 (写真左) の計7項目

◀本体は縦20mm×横60mm×奥行50mmと非常にコンパクト (上のe-driveも同サイズ)。設置場所の自由度は高いが、やはりステアリングコラムの上が、視認性、見栄えともによく、オススメ

エコドライブ度をチェックできるe-drive

「e-drive」では燃費表示はできないが、ただゆっくり走るだけのエコ運転ではなく、速度に応じた効率の良い加速など、“上手なエコ運転”を表示や音で教えてくれる。具体的には「エコランモニター」モードでアクセルを踏むと「ACEL」と表示されるのだが、これが点滅とアラーム警告するギリギリが最も効率の良い状態。ブレーキについても、急ブレーキを踏むと「BrAE」表示が点滅するのだが、これは早めに減速を行い、エンブレを使った惰性減速を長く使おうという警告だ。エコラン度の採点もしてくれるので、楽しみながら効率的なエコ運転が体得できる。

エコノミードライブサポートモニター e-drive

¥10,290

▼運転開始から停止するまでの一区間毎のエコドライブ度を診断してくれる「区間運転採点」(写真上)。100~90点が最適運転、89~30点がノーマル運転、29~0点が不経済運転となる



▲こちらの配線は簡単で、車速信号を取ることができれば、あとは電源をシガーライターソケットに差すだけお手軽

多機能メーターではなく、表示の充実した燃費計を選ぶ
最近では純正装着されているクルマも増えてくるが、まだまだ全車標準とはいかない燃費計。そこで市販品の出番となるわけだが、燃費計というと思いつかぶのがマルチメーター。診断コネクタによる簡単取り付けで、様々な情報をチェックできるのが良いところだが、値段も3〜4万円台とそれなりに……。そこで今回は燃費に特化した内容で、価格も2万円以下と購入しやすい「e-nenpi」を試してみた。配線が汎用タイプなので、取り付けられる車種が多いのも嬉しいところだ。取り付けられたのは編集部・2号のデミオ。装着に関しては、電装系のDIYが得意な人なら対応できるレベルだが、最大の難関はECUのインジェクター信号からの配線。最も情報の精度が高い位置なのだが、EC

Uがエンジンルームにある車種が多く、配線を室内に引き込むのが結構大変なのだ。また信号を分けてもらうためにコンピュータ側の配線の被ふくを剥く必要があるのだが、場所が場所だけに、かなり緊張……。自信のない人は、迷わずプロに頼もう。装着後、まず瞬間燃費での数値の動きの速さに驚いた。純正の燃費計とは比較にならないほど目まぐるしく数値が動く。また市販品でも表示できる機種が少ないアイドリング消費量では、1000分の1単位で表示されるため、信号待ちでも数値がみるみる上昇。無駄なアイドリングはやめようとの底から思える。そのほか、好きな区間の平均燃費を表示できる「積算燃費」や、エンジンを掛けてから現時点までの燃料代が表示される「ガソリン代」など、項目は豊富。色々と項目を替えながら走れば、新鮮な気分でエコランを楽しめるのではないだろうか。